

1. 略歴

- 1983年3月 東京大学文学部国史学専修課程卒業
- 1985年3月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程国史学専門課程修了
- 1987年3月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程国史学専門課程中退
- 1987年4月 山梨大学教育学部講師（歴史学）
- 1990年9月 山梨大学教育学部助教授（歴史学）
- 1994年11月 博士（文学）
- 1997年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授
- 2002年10月 スイス、ジュネーブ大学招聘教授（～2003年2月）
- 2010年7月 東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本古代史

b 研究課題

古代天皇制、日唐律令制比較研究、摂関期国家の研究

c 概要と自己評価

日本古代の律令制を東アジア世界の中で位置付けることを目的とし、それにともない古代天皇制の解明、敦煌吐魯番文書の研究、摂関政治期の国制の解明を行っている。科研費をうけて長年続けている天聖令にもとづく律令制の比較研究については、律令制の特質と7世紀から9世紀にかけての東アジアの国際的緊張と隋唐文明の受容過程について論じた岩波新書『律令国家と隋唐文明』を執筆した。また亡くなられた吉田孝先生の残された律令制関係などの論文をまとめて岩波書店から『続律令国家と古代の社会』を編集して出版した。2019年の史学会大会でシンポジウム「日本律令制と中国文明」を企画し、その成果に基づいた論文集の出版準備を進めている。

d 主要業績

(1) 著書

単著、大津透、『律令国家と隋唐文明』、岩波書店、288頁、2020.2

共著、日本歴史学会編、『人とことば（人物叢書別冊）』、吉川弘文館、257頁、2020.3

(2) 論文

大津透、「畿内の人民支配」、広瀬和雄ほか編『畿内の古代学1巻 畿内制』、180-197頁、雄山閣出版、2018.4

大津透、「日唐古文書学比較研究の一箇視角—以文書処理為中心」、黄正建主編『中国古文書学研究初編』、上海古籍出版社、160-174頁、2019.5

大津透、「関晃『帰化人—古代の政治・経済・文化を語る—』、『日本史研究』、688、17-23頁、2019.12

(3) 解説

大津透、「解説」、吉田孝『続律令国家と古代の社会』岩波書店、355-366頁、2018.5

(4) 学会発表

国内、大津透、「古代天皇制の成立と特質」、宮城県高等学校社会科教育研究会、仙台第二高校、2018.9.21

(5) 会議主催(チェア他)

国際、「第63回国際東方学会会議」、チェア、国家と儀礼—東アジアの中の日本古代文化、日本教育会館、2018.5.19

大津透、「シンポジウムIV 国家と儀礼—東アジアの中の日本古代文化」、『東方学会報』114、22-24頁、2018.7

国内、「第117回史学会大会古代史部会」、チェア、日本律令制と中国文明、東京大学、2019.11.10

(6) 小文

大津透、「日唐宋律令比較研究の進展」、『科研費NEWS』2018年度vol.1、5頁、2018.6

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

講演、「覆る道長像」、歴史文化講座「藤原道長 望月の歌から一千年 III」、京都市立文化芸術会館、2018.10.24

(2) 学会

国内、日本歴史学会、評議員、2002.7～

国内、東方学会、常務理事、2019.6～、国際東方学会会議運営委員